

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 93813 単位数 : 2

科目名	自然地理学	科目責任者	仁尾 泰明
課題と試験担当教員	仁尾 泰明		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC342		

■ 科目概要

地理学はアプローチの方法からみると、テーマごとの分析を行う一般地理学（系統地理学ともいう）と、地域ごとの理解・記述を目指す地誌学（地域地理学ともいう）とに大別されますが、一般地理学のなかで、自然現象を直接の対象とする分野を自然地理学といい、人文・社会現象を対象とする人文地理学と対比されます。

自然環境は地理学研究の出発点であり、この自然環境を構成している諸要素を理解することはきわめて重要であります。この教科書は、主に岩石圏、大気圏、水圏および生物圏の特性を説明することに重きが置かれております。それゆえ、これを読むことによって、各分野の主な特性について、幅広い、実践的な知識を学習することができます。

現代の環境問題の多くは、自然環境と密接に結びついています。私たちは、自ら生活している土地で学習するということだけにとどまらず、現に発生している諸問題の事例研究についても広く把握しておくのが望ましいと思います。なぜなら、地震や、火山の爆発や、ひどい洪水といった自然災害は、自然地理学の理解を助ける事例となるからです。

この教科書の根底にある基本的な考え方は、相互関連性ということであり、これらの相互関連性は人間と自然環境との間にも、土壌と植生との間といった自然環境の内部の要素と要素の間にも存在しています。

それゆえ、この授業では自然環境の構成要素や相互関連性を理解し、それらの知識を身に付けるとともに、地理的なものを見方や考え方を養います。

■ 到達目標

1. 自然環境の構成要素や相互関連性を理解し、それらの知識を身に付けます。
2. 地理的なもの見方や考え方を養います。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1部	自然地理学 (1) 第1部の目的 (2) 単元相互の関連 (3) 基調となる考え方と概念 第1部の概要
1. 1	風化プロセス 1.1.1定義 1.1.2機械的（物理的）風化の営力 1.1.3結晶化プロセス 1.1.4化学的風化 1.1.5風化様式と風化率に影響する諸要素 1.1.6システムとしての風化
1. 2	環境の災害危険性 1.2.1定義 1.2.2. 環境の災害危険性 1.2.3熱帯低気圧（サイクロン） 1.2.4たつまき（トルネード） 1.2.5有害生物による危険災害性 1.2.6プレートテクトニクス 1.2.7プレートテクトニクスと結びついた数々の危険 1.2.8災害危険性への対応

学習範囲 該当する章など	学習内容
1. 3	河川と河谷 1.3.1定義 1.3.2水流のエネルギー 1.3.3水流によって運搬される荷重 1.3.4縦断形と横断形 1.3.5蛇行 1.3.6流況 1.3.7平衡 1.3.8定義 1.3.9豪雨流量図 1.3.10河川流の調整
1. 4	流域 1.4.1定義 1.4.2水系 1.4.3水系形態計測（水系結合構造） 1.4.4地質構造と関連した流域 1.4.5流域管理—事例研究—
1. 5	氷河・周氷河環境 1.5.1定義 1.5.2背景 1.5.3山地と低地の氷河作用の特徴 1.5.4圏谷（カール） 1.5.5槽状（U字）谷 1.5.6ドラムリン
	1.5.7周氷河環境 1.5.8寒冷な環境のもとで生活する場合の諸問題—事例研究—
1. 6	海岸環境 1.6.1定義 1.6.2波 1.6.3海浜 1.6.4海による地形形成プロセス 1.6.5海水準変化 1.6.6.海水準の上昇 1.6.7海食崖の浸食 1.6.8海岸の管理
1. 7	乾燥環境 1.7.1定義 1.7.2現に進行している風化の性質 1.7.3現に進行している風食と堆積 1.7.4過去に湿潤期の存在した証拠 1.7.5浸食平野の形成 1.7.6インゼルベルグ（島状丘） 1.7.7砂漠化現象 1.7.8砂漠化現象への取り組み—事例研究—
1. 8	大気システム 1.8.1定義 1.8.2大気中の水蒸気 1.8.3安定と不安定 1.8.4雲 1.8.5気団 1.8.6局地風 1.8.7微気候 1.8.8気圏システム：都市の影響

学習範囲 該当する章など	学習内容
1. 9	土壌 1.9.1定義 1.9.2土壌の構成要素 1.9.3土壌生成因子 1.9.4土壌生成プロセス 1.9.5いくつかの土壌化学的現象 1.9.6土壌に対する人間の影響 1.9.7土壌の肥沃度
	1.9.8土壌断面 1.9.9世界の土壌 1.9.10システムとしての土壌 1.9.11土壌の間違った管理と保全
1. 10	エコシステム（生態系） 1.10.1定義 1.10.2エコシステム（生態系） 1.10.3生態的群落 1.10.4バイオーム（生物群系）
	1.10.5事例研究 1.10.6事例研究 索引

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	まず、教科書で試験範囲を正しく把握します。それを踏まえて、試験範囲の内容をよく理解しながら、熟読して下さい。しかも試験範囲のどこから出題されても解答できるように、試験範囲をしっかりと読みましょう。決して山をかけないように。試験勉強を通して、教師になるために必要な知識と技能を確実に身に付けるのだという気持ちで臨むとよいです。 教科書の内容について、その理解と習得を問います。
レポート	レポートを作成する際に最も大切なことは、与えられた課題の題意をしっかりと把握することです。課題が何を求めているのか、正しく認識し、それに対応した論理構成でレポートを組み立てていきます。なかには、これが不十分のいわゆる「的外れのレポート」が時々見受けられます。 次に、大切なことは、自分の言葉で綴るということです。教科書の該当する箇所をそのまま丸写しにしたものや、教科書や参考書の文章を切り貼りした継ぎはぎのものがありますが、いくら課題の題意を把握していても、レポートの価値はなくなってしまいます。平易な表現でもよいですから、内容をしっかりと理解して自分なりの表現や言葉づかいでまとめて下さい。 さらに、大切なことは下書きの段階で十分推敲を行うことです。下書きをよく読み、レポートを何回もチェックしましょう。推敲を何度も行うことによって、レポートを書くことに慣れ、また、レポートの完成度が高くなります。推敲の時間も十分取るように心掛けましょう。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：自然地理学の基礎
著者名：C.J.ラインズ他
出版社名：古今書院
出版年：
版：
刷：
ISBN：

■ 参考書

高橋日出男他『自然地理学概論』、朝倉書店、2008 3465円

〔教養の自然地理学書。内容は、惑星としての地球、気候要素と気候因子、世界の気候区分、地球のエネルギー収支と大気大循環、地域スケールの気候、日本の気候、気候の変化・変動、世界と日本の大地形、第四紀と氷河時代、山地と丘陵の地形、平野と海岸の地形、生物の地理学、水の循環と水資源、自然災害、地球規模の環境問題など。〕

大山正雄・大矢雅彦『自然地理学 上巻』、古今書院、2006 2625円

〔教養の自然地理学書。おもな内容は、序章地理学と地球科学（地理学とは、地球の姿、世界の地形）、第1章日本列島の成立（構造と第四紀）、第2章河川と平野（平野の大分類、河川洪水による平野地形の形成）、第3章治水・利水と平野の開発（堤防の変遷と地域性、利根川東遷、ダム建設）、第4章気候（季節の起源、大気大循環、日本の気候）、第5章海と気候（海水の大循環、大陸の西岸と東岸の気候、エルニーニョと異常気象）など。〕

大山正雄・大矢雅彦『自然地理学 下巻』、古今書院、2007 2730円

〔教養の自然地理学書。おもな内容は、第6章水文（水の性質、地球の水、水循環、河川、湖沼、地下水、陸水の性質、水資源と水利用）、第7章プレートテクトニクス（大陸移動説、プレートの移動、プルームテクトニクス）、第8章地震（地震と断層、規模、震度、周期性）、第9章火山（活火山の定義、火山噴出物、岩石の種類、火山災害）、第10章温泉（定義、成因、産状、温泉災害）、第11章自然地理の応用（水害地形分類図による洪水の予測）など。〕

■ 履修上のアドバイス

高等学校教育において「地理」を履修しなかった人は、高等学校用の『地理用語集』『地理事典』『地図帳』などを手元に用意して活用されるとよいでしょう。

それでも不十分な場合は、大学教養用の『地理辞典』（二宮書店）『最新地理学用語辞典[改訂版]』（原書房）『人文地理学辞典』（朝倉書店）『人文地理学事典』（丸善出版）などがあります。

教科書を丁寧に読み、わからない語句や用語がないように辞書などでよく調べ、その上で内容全体も正確に把握して下さい。大切なことは、通読のレベルにとどまらず精読することです。

■ 自習時間

個人差がありますが、レポート1課題あたりの作成に20時間程度、科目試験の勉強に40時間程度が考えられます。

■ 担当者のプロフィール

1949年に北海道函館市生まれ、神奈川県横浜市で育つ。

関心を持つ分野は「地理学」「地理教育」「社会科教育」

好きな言葉は「使命を自覚するとき、才能の芽は急速に伸びる」